

授業科目名 / Course Title	微分積分A (Aクラス) / Differential and Integral A		
授業区分 / Regular or Intensive	週間授業	授業方法 / Lecture or Seminar	講義科目
開講学期 / Course Start	2025年度 / Academic Year 前期 / First	対象学科 / Department	創造工学科 / Department of Engineering, 創造工学科 / Department of Engineering, 創造工学科 / Department of Engineering, 創造工学科建築土木工学 コース / Department of EngineeringCourse of Architecture and Civil Engineering, 創造工学科建 築土木工学コース建築学トラック / Department of EngineeringCourse of Architecture and Civil EngineeringArchitecture and Building Engineering Track, 創造工学 科建築土木工学コース土木工学トラック / Department of EngineeringCourse of Architecture and Civil EngineeringCivil Engineering Track, 創造工学科機械ロボット工学 コース / Department of EngineeringCourse of Robotics and Mechanical Engineering, 創造工学科航 空宇宙工学コース / Department of EngineeringCourse of Aerospace Engineering, 創造工学科電気電子工学 コース / Department of EngineeringCourse of Electrical and Electronic Engineering, システム理化 学科 / Department of Sciences and Informatics, システム理化学科システム理化 学科 / Department of Sciences and InformaticsDepartment of Sciences and Informatics, システム理化 学科物理物質システムコース / Department of Sciences and InformaticsCourse of Physics and Materials Sciences, システム理化 学科化学生物システムコース / Department of Sciences and InformaticsCourse of Chemical and Biological Systems, システム理化学科数理情報シ ステムコース / Department of Sciences and InformaticsCourse of Mathematical Science and
開講曜限 / Class period	木/Thu 5 ,木/Thu 6	授業科目区分 / Category	教育課程 創造工学科
必修・選択 / Mandatory or Elective	必修	時間割コード / Registration Code	J2009
対象学年 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Number of Credits	2単位
担当教員名 / Lecturer	高橋 雅朋(システム理化学科数理情報システムコース)		
連絡先 (研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	高橋 雅朋(Q403 (高橋研究室) masatomo@murotan-it.ac.jp)		
オフィスアワー (自由質問時間) / Office hours	高橋 雅朋(月曜日16:15~17:45)		
実務経験 / Work experience			
授業のねらい / Learning Objectives			
理工学部のどの課程でも必要となる数学の基礎知識の1つである微分積分学に関する内容を講義する。 微分積分 A では初等関数の基本性質について理解し、1変数関数の極限・連續性・微分法を理解することを目的とする。			
到達度目標 / Outcomes Measured By:			
1. べき関数、多項式、三角関数、逆三角関数、指數関数、対数関数などの基本的な関数の性質が理解できる。また、それらの関数に関連した極限を求めることができる。 2. 1変数関数の連續性と微分の概念を理解し、関数に対して連續性と導関数の導出を行うことができる。 3. 1変数関数のTaylorの定理を理解し、関数に対してTaylor展開を行なうことができる。また、Taylor展開を応用して、関数値の近似値を求めることが出来る。 4. 1変数関数の極値を求めることが出来る。			
授業計画 / Course Schedule			

総授業時間数：1.5時間(90分) × 15週=22.5時間

- 第1回：実数の性質と諸概念
第2回：関数の定義と性質
第3回：関数の極限
第4回：連続関数の定義と性質
第5回：逆関数
第6回：初等関数1（指数関数、対数関数）
第7回：初等関数2（三角関数、逆三角関数）
第8回：1回から7回の講義内容の復習と中間試験
第9回：微分の定義と性質
第10回：初等関数の微分1（合成関数の微分）
第11回：初等関数の微分2（逆関数の微分）
第12回：高次導関数
第13回：平均値の定理とロピタルの定理
第14回：テイラー展開とマクローリン展開
第15回：1変数関数の極値
定期試験

教科書の内容（講義内に指示する）を予め理解した上で講義に参加すること。

また、演習、レポートを課す。

各回の学修時間の目安は、事前・事後合わせて4時間必要です。

教科書 / Required Text

微分積分 高坂良史 [ほか] 共著 学術図書出版社 2018 (ISBN:9784780606447)

参考書等 / Required Materials

教科書・参考書に関する備考

微分積分に関する本は数多く出版されているので図書館などで自分にあった本を探し、参考にしてください。

教科書は微分積分B、微分積分Cでも使うので、紛失しないようにしてください。

成績評価方法 / Grading Guidelines

中間試験と定期試験を行う。

中間試験40%、定期試験60%の割合で100点満点として評価する。そのうえで60点以上を合格とする。

各到達度目標は中間試験、定期試験において定義、計算問題などを出題し達成度を評価する。

履修上の注意 / Please Note

レポート等は必ず指定された日時までに提出すること。

中間試験、補講等の掲示には十分に注意すること。

中間試験、定期試験を正当な理由で欠席した場合、理由書を1週間以内に提出すること。理由書の提出がある場合、追試験等の措置を講ずる。

レポートの提出、および講義への出席が良好な、成績が60点未満の不合格者に対して、再試験を1ヶ月以降に1回だけ行う。ただし、再試験を受験するためには、中間試験、定期試験を受験している必要があります、再試験合格者の成績は試験の得点に関わらず60点とする。

最終的に不合格になった者は、再履修すること。

教員メッセージ / Message from Lecturer

講義の予習・復習を行うように心掛け、教科書の演習問題を解くなどの自主的な勉強をしてください。

高校で学んだ数学は既知であることを前提に講義が行われます。理解が不足していると思われる部分があれば、高校の教科書等で復習をしながら講義に出席してください。

講義の質問等があれば、オフィスアワーに来てください。

学習・教育目標との対応 / Learning and Educational Policy

学生便覧「学習目標と授業科目との関係表」参照

関連科目 / Associated Courses

1年次後期の微分積分B、2年次前期の微分積分Cにおいて微分積分Aを用いて微分積分学、微分方程式を学ぶ。

実務経験のある教員による授業科目 / Course by professor with work experience

備考 / Notes

疑問や質問などあれば部屋に来てください。オフィスアワー以外にも在室時には対応します。

本科目は、文部科学省による数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーアクセス）の認定に基づく、数理データサイエンス教育プログラムの教育科目として実施されます。数理基礎科目群に含まれ、数理科学の基盤的な内容を学びます。プログラム内容については、学生便覧の数理データサイエンス教育プログラムを参照してください。

DSポイント：2ポイント

授業科目名 / Course Title	微分積分A (Bクラス) / Differential and Integral A		
授業区分 / Regular or Intensive	週間授業	授業方法 / Lecture or Seminar	講義科目
開講学期 / Course Start	2025年度 / Academic Year 前期 / First	対象学科 / Department	創造工学科 / Department of Engineering, 創造工学科創造工学科 / Department of EngineeringDepartment of Engineering, 創造工学科建築土木工学コース / Department of EngineeringCourse of Architecture and Civil Engineering, 創造工学科建築土木工学コース建築学トラック / Department of EngineeringCourse of Architecture and Civil EngineeringArchitecture and Building Engineering Track, 創造工学科建築土木工学コース土木工学トラック / Department of EngineeringCourse of Architecture and Civil EngineeringCivil Engineering Track, 創造工学科機械ロボット工学コース / Department of EngineeringCourse of Robotics and Mechanical Engineering, 創造工学科航空宇宙工学コース / Department of EngineeringCourse of Aerospace Engineering, 創造工学科電気電子工学コース / Department of EngineeringCourse of Electrical and Electronic Engineering, システム理化学科 / Department of Sciences and Informatics, システム理化学科システム理化学科 / Department of Sciences and InformaticsDepartment of Sciences and Informatics, システム理化学科物理物質システムコース / Department of Sciences and InformaticsCourse of Physics and Materials Sciences, システム理化学科化学生物システムコース / Department of Sciences and InformaticsCourse of Chemical and Biological Systems, システム理化学科数理情報システムコース / Department of Sciences and InformaticsCourse of Mathematical Science and
開講曜限 / Class period	木/Thu 7 ,木/Thu 8	授業科目区分 / Category	教育課程 創造工学科
必修・選択 / Mandatory or Elective	必修	時間割コード / Registration Code	J2010
対象学年 / Year	1年 ,2年 ,3年 ,4年	単位数 / Number of Credits	2単位
担当教員名 / Lecturer	高橋 雅朋(システム理化学科数理情報システムコース)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	高橋 雅朋(Q403 (高橋研究室) masatomo@muroran-it.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	高橋 雅朋(月曜日16:15-17:45)		
実務経験 / Work experience			
授業のねらい / Learning Objectives	<p>理工学部のどの課程でも必要となる数学の基礎知識の1つである微分積分学に関する内容を講義する。</p> <p>微分積分Aでは初等関数の基本性質について理解し、1変数関数の極限・連続性・微分法を理解することを目的とする。</p>		
到達度目標 / Outcomes Measured By:	<ol style="list-style-type: none"> べき関数、多項式、三角関数、逆三角関数、指数関数、対数関数などの基本的な関数の性質が理解できる。また、それらの関数に関連した極限を求めることが出来る。 1変数関数の連続性と微分の概念を理解し、関数に対して連続性と導関数の導出を行うことが出来る。 1変数関数のTaylorの定理を理解し、関数に対してTaylor展開を行うことが出来る。また、Taylor展開を応用して、関数値の近似値を求めることが出来る。 1変数関数の極値を求めることが出来る。 		
授業計画 / Course Schedule			

総授業時間数：1.5時間(90分) × 15週=22.5時間

第1回：実数の性質と諸概念

第2回：関数の定義と性質

第3回：関数の極限

第4回：連続関数の定義と性質

第5回：逆関数

第6回：初等関数1（指数関数、対数関数）

第7回：初等関数2（三角関数、逆三角関数）

第8回：1回から7回の講義内容の復習と中間試験

第9回：微分の定義と性質

第10回：初等関数の微分1（合成関数の微分）

第11回：初等関数の微分2（逆関数の微分）

第12回：高次導関数

第13回：平均値の定理とロピタルの定理

第14回：テイラー展開とマクローリン展開

第15回：1変数関数の極値

定期試験

教科書の内容（講義内に指示する）を予め理解した上で講義に参加すること。

また、演習、レポートを課す。

各回の学修時間の目安は、事前・事後合わせて4時間必要です。

教科書 / Required Text

微分積分 高坂良史 [ほか] 共著 学術図書出版社 2018 (ISBN:9784780606447)

参考書等 / Required Materials

教科書・参考書に関する備考

微分積分に関する本は数多く出版されているので図書館などで自分にあった本を探し、参考にしてください。

教科書は微分積分B、微分積分Cでも使うので、紛失しないようにしてください。

成績評価方法 / Grading Guidelines

中間試験と定期試験を行う。

中間試験40%、定期試験60%の割合で100点満点として評価する。そのうえで60点以上を合格とする。

各到達度目標は中間試験、定期試験において定義、計算問題などを出題し達成度を評価する。

履修上の注意 / Please Note

レポート等は必ず指定された日時までに提出すること。

中間試験、補講等の掲示には十分に注意すること。

中間試験、定期試験を正当な理由で欠席した場合、理由書を1週間以内に提出すること。理由書の提出がある場合、追試験等の措置を講ずる。

レポートの提出、および講義への出席が良好な、成績が60点未満の不合格者に対して、再試験を1ヶ月以降に1回だけ行う。ただし、再試験を受験するためには、中間試験、定期試験を受験している必要があります、再試験合格者の成績は試験の得点に関わらず60点とする。

最終的に不合格になった者は、再履修すること。

教員メッセージ / Message from Lecturer

講義の予習・復習を行うように心掛け、教科書の演習問題を解くなどの自主的な勉強をしてください。

高校で学んだ数学は既知であることを前提に講義が行われます。理解が不足していると思われる部分があれば、高校の教科書等で復習をしながら講義に出席してください。

講義の質問等があれば、オフィスアワーに来てください。

学習・教育目標との対応 / Learning and Educational Policy

学生便覧「学習目標と授業科目との関係表」参照

関連科目 / Associated Courses

1年次後期の微分積分B、2年次前期の微分積分Cにおいて微分積分Aを用いて微分積分学、微分方程式を学ぶ。

実務経験のある教員による授業科目 / Course by professor with work experience

備考 / Notes

疑問や質問などあれば部屋に来てください。オフィスアワー以外にも在室時には対応します。

本科目は、文部科学省による数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシー・レベル）の認定に基づく、数理データサイエンス教育プログラムの教育科目として実施されます。数理基礎科目群に含まれ、数理科学の基盤的な内容を学びます。

プログラム内容については、学生便覧の数理データサイエンス教育プログラムを参照してください。

DSポイント：2ポイント

授業科目名 / Course Title	微分積分A (Cクラス) / Differential and Integral A		
授業区分 / Regular or Intensive	週間授業	授業方法 / Lecture or Seminar	講義科目
開講学期 / Course Start	2025年度 / Academic Year 前期 / First	対象学科 / Department	創造工学科 / Department of Engineering, 創造工学科創造工学科 / Department of EngineeringDepartment of Engineering, 創造工学科建築土木工学コース / Department of EngineeringCourse of Architecture and Civil Engineering, 創造工学科建築土木工学コース建築学トラック / Department of EngineeringCourse of Architecture and Civil EngineeringArchitecture and Building Engineering Track, 創造工学科建築土木工学コース土木工学トラック / Department of EngineeringCourse of Architecture and Civil EngineeringCivil Engineering Track, 創造工学科機械ロボット工学コース / Department of EngineeringCourse of Robotics and Mechanical Engineering, 創造工学科航空宇宙工学コース / Department of EngineeringCourse of Aerospace Engineering, 創造工学科電気電子工学コース / Department of EngineeringCourse of Electrical and Electronic Engineering, システム理化学科 / Department of Sciences and Informatics, システム理化学科システム理化学科 / Department of Sciences and InformaticsDepartment of Sciences and Informatics, システム理化学科物理物質システムコース / Department of Sciences and InformaticsCourse of Physics and Materials Sciences, システム理化学科化学生物システムコース / Department of Sciences and InformaticsCourse of Chemical and Biological Systems, システム理化学科数理情報システムコース / Department of Sciences and InformaticsCourse of Mathematical Science and
開講曜限 / Class period	金/Fri 5 , 金/Fri 6	授業科目区分 / Category	教育課程 創造工学科
必修・選択 / Mandatory or Elective	必修	時間割コード / Registration Code	J2011
対象学年 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Number of Credits	2単位
担当教員名 / Lecturer	可香谷 隆(システム理化学科数理情報システムコース)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	可香谷 隆(可香谷隆 (研究室: Q411, E-mail: kagaya@muroran-it.ac.jp))		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	可香谷 隆(毎週火曜日 12:55から14:25まで)		
実務経験 / Work experience			
授業のねらい / Learning Objectives	<p>理工学部のどの課程でも必要となる数学の基礎知識の1つである微分積分学に関する内容を講義する。</p> <p>微分積分Aでは初等関数の基本性質について理解し、1変数関数の極限・連続性・微分法を理解することを目的とする。</p>		
到達度目標 / Outcomes Measured By:	<ol style="list-style-type: none"> べき関数、多項式、三角関数、逆三角関数、指数関数、対数関数などの基本的な関数の性質が理解できる。また、それらの関数に関連した極限を求めることが出来る。 1変数関数の連続性と微分の概念を理解し、関数に対して連続性と導関数の導出を行うことが出来る。 1変数関数のTaylorの定理を理解し、関数に対してTaylor展開を行うことが出来る。また、Taylor展開を応用して、関数値の近似値を求めることが出来る。 1変数関数の極値を求めることが出来る。 		
授業計画 / Course Schedule			

総授業時間数：1.5時間(90分) × 15週=22.5時間

第1回：実数の性質と諸概念

第2回：関数の定義と性質

第3回：関数の極限

第4回：連続関数の定義と性質

第5回：逆関数

第6回：初等関数1（指数関数、対数関数）

第7回：初等関数2（三角関数、逆三角関数）

第8回：1回から7回の講義内容の復習と中間試験

第9回：微分の定義と性質

第10回：初等関数の微分1（合成関数の微分）

第11回：初等関数の微分2（逆関数の微分）

第12回：高次導関数

第13回：平均値の定理とロピタルの定理

第14回：テイラー展開とマクローリン展開

第15回：1変数関数の極値

定期試験

教科書の内容（講義内に指示する）を予め理解した上で講義に参加すること。

また、演習、レポートを課す。

各回の学修時間の目安は、事前・事後合わせて4時間必要です。

教科書 / Required Text

微分積分 高坂良史 [ほか] 共著 学術図書出版社 2018 (ISBN:9784780606447)

参考書等 / Required Materials

教科書・参考書に関する備考

微分積分に関する本は数多く出版されているので図書館などで自分にあった本を探し、参考にしてください。

教科書は微分積分B、微分積分Cでも使うので、紛失しないようにしてください。

成績評価方法 / Grading Guidelines

中間試験と定期試験を行う。また、毎回の講義でレポートを課す。

「中間試験40%、定期試験60%」または「中間試験36%、定期試験54%、レポート点10%」のうち評価が高くなる割合で換算し、100点満点として評価する。そのうえで60点以上を合格とする。

各到達度目標の評価方法は、中間試験・定期試験において定義、計算問題を出題し、達成度を評価する。

履修上の注意 / Please Note

演習やレポート等は必ず指定された日時までに提出してください。

中間試験や補講等の連絡はMoodleを主に用いるので、各自確認してください。

中間試験、定期試験を正当な理由で欠席した場合は学務課に欠席届けを提出し、担当教員にe-mailで速やかに報告すること。欠席理由が正当な場合、追試験等の措置を講ずる。

再試験を実施することがあるが、受けるためには、中間試験・定期試験の受験と一定数の演習・レポートの提出が必須である。再試験合格者の成績は試験の得点に関わらず60点とする。

最終的に不合格になった者は、再履修すること。

教員メッセージ / Message from Lecturer

講義の予習・復習をするように心掛けて下さい。

連絡事項はMoodleに掲載しますので、忘れずに登録して下さい。

講義の質問等あれば事前にE-mailでご連絡して頂いた上でQ411可香谷研究室にお越しください。

E-mail: kagaya@murooran-it.ac.jp

学習・教育目標との対応 / Learning and Educational Policy

学生便覧「学習目標と授業科目との関係表」参照

関連科目 / Associated Courses

1年次後期の微分積分B、2年次前期の微分積分Cにおいて微分積分Aを用いて微分積分学、微分方程式を学ぶ。

実務経験のある教員による授業科目 / Course by professor with work experience

備考 / Notes

疑問や質問などあれば研究室にて対応します。

研究室での質問対応の際には、事前にE-mailにてご連絡頂けると助かります。

本科目は、文部科学省による数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の認定に基づく、数理データサイエンス教育プログラムの教育科目として実施されます。数理基礎科目群に含まれ、数理科学の基盤的な内容を学びます。プログラム内容については、学生便覧の数理データサイエンス教育プログラムを参照してください。

DSポイント：2ポイント

授業科目名 / Course Title	微分積分 A (Dクラス) / Differential and Integral A		
授業区分 / Regular or Intensive	週間授業	授業方法 / Lecture or Seminar	講義科目
開講学期 / Course Start	2025年度 / Academic Year 前期 / First	対象学科 / Department	創造工学科 / Department of Engineering, 創造工学科創造工学科 / Department of EngineeringDepartment of Engineering, 創造工学科建築土木工学コース / Department of EngineeringCourse of Architecture and Civil Engineering, 創造工学科建築土木工学コース建築学トラック / Department of EngineeringCourse of Architecture and Civil EngineeringArchitecture and Building Engineering Track, 創造工学科建築土木工学コース土木工学トラック / Department of EngineeringCourse of Architecture and Civil EngineeringCivil Engineering Track, 創造工学科機械ロボット工学コース / Department of EngineeringCourse of Robotics and Mechanical Engineering, 創造工学科航空宇宙工学コース / Department of EngineeringCourse of Aerospace Engineering, 創造工学科電気電子工学コース / Department of EngineeringCourse of Electrical and Electronic Engineering, システム理化学科 / Department of Sciences and Informatics, システム理化学科システム理化学科 / Department of Sciences and InformaticsDepartment of Sciences and Informatics, システム理化学科物理物質システムコース / Department of Sciences and InformaticsCourse of Physics and Materials Sciences, システム理化学科化学生物システムコース / Department of Sciences and InformaticsCourse of Chemical and Biological Systems, システム理化学科数理情報システムコース / Department of Sciences and InformaticsCourse of Mathematical Science and
開講曜限 / Class period	火/Tue 7 ,火/Tue 8	授業科目区分 / Category	教育課程 創造工学科
必修・選択 / Mandatory or Elective	必修	時間割コード / Registration Code	J2012
対象学年 / Year	1年,2年,3年,4年	単位数 / Number of Credits	2単位
担当教員名 / Lecturer	若狭 恭平(システム理化学科数理情報システムコース)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	若狭 恭平((Q404 (若狭研究室) wakasa@murooran-it.ac.jp))		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	若狭 恭平(火曜16時00分~17時00分)		
実務経験 / Work experience			
授業のねらい / Learning Objectives	<p>理工学部のどの課程でも必要となる数学の基礎知識の1つである微分積分学に関する内容を講義する。</p> <p>微分積分 A では初等関数の基本性質について理解し、1変数関数の極限・連続性・微分法を理解することを目的とする。</p>		
到達度目標 / Outcomes Measured By:	<ol style="list-style-type: none"> べき関数、多項式、三角関数、逆三角関数、指数関数、対数関数などの基本的な関数の性質が理解できる。また、それらの関数に関連した極限を求めることが出来る。 1変数関数の連続性と微分の概念を理解し、関数に対して連続性と導関数の導出を行うことが出来る。 1変数関数のTaylorの定理を理解し、関数に対してTaylor展開を行うことが出来る。また、Taylor展開を応用して、関数値の近似値を求めることが出来る。 1変数関数の極値を求めることが出来る。 		
授業計画 / Course Schedule			

総授業時間数：1.5時間(90分) × 15週=22.5時間

第1回：実数の性質と諸概念

第2回：関数の定義と性質

第3回：関数の極限

第4回：連続関数の定義と性質

第5回：逆関数

第6回：初等関数1（指数関数、対数関数）

第7回：初等関数2（三角関数、逆三角関数）

第8回：1回から7回の講義内容の復習と中間試験

第9回：微分の定義と性質

第10回：初等関数の微分1（合成関数の微分）

第11回：初等関数の微分2（逆関数の微分）

第12回：高次導関数

第13回：平均値の定理とロピタルの定理

第14回：泰イラー展開とマクローリン展開

第15回：1変数関数の極値

定期試験

教科書の内容（講義内に指示する）を予め理解した上で講義に参加すること。

また、演習、レポートを課す。

各回の学修時間の目安は、事前・事後合わせて4時間必要です。

教科書 / Required Text

微分積分 高坂良史 [ほか] 共著 学術図書出版社 2018 (ISBN:9784780606447)

参考書等 / Required Materials

教科書・参考書に関する備考

微分積分に関する本は数多く出版されているので図書館などで自分にあった本を探し、参考にしてください。

教科書は微分積分B、微分積分Cでも使うので、紛失しないようにしてください。

成績評価方法 / Grading Guidelines

中間試験と定期試験を行う。

中間試験40%、定期試験60%の割合で100点満点として評価する。そのうえで60点以上を合格とする。

各到達度目標は中間試験、定期試験において定義、計算問題などを出題し達成度を評価する。

履修上の注意 / Please Note

試験や補講等の連絡は、掲示板または授業中に通知します。

レポート等の提出を誤すことがあるので、その場合は必ず指定された日時までに提出してください。

中間試験、定期試験を受験・評価するためには、出席が良好である必要がある。

中間試験、定期試験を正当な理由で欠席した場合、試験日の当日までにメールで連絡を行い、欠席届を1週間以内に提出すること。メール・欠席届の提出がある場合、追試験等の措置をこうする。

再試験を受けるためには、中間試験、定期試験を受験する必要がある。また、出席が良好な成績が60点未満の不合格者に対して、再試験を1回行うが、再試験合格者の成績は試験の得点に関わらず60点とする。

最終的に不合格になった者は、再履修すること。

教員メッセージ / Message from Lecturer

講義内容の予習・学習の振り返りを行うこと

学習・教育目標との対応 / Learning and Educational Policy

学生便覧「学習目標と授業科目との関係表」参照

関連科目 / Associated Courses

1年次後期の微分積分B、2年次前期の微分積分Cにおいて微分積分Aを用いて微分積分学、微分方程式を学ぶ。

実務経験のある教員による授業科目 / Course by professor with work experience

備考 / Notes

質問は、教員室で対面で受け付けます。

オフィスアワー以外にも在室時には対応しますが、メールでアポイントメントを取るとよい。

本科目は、文部科学省による数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の認定に基づく、数理データサイエンス教育プログラムの教育科目として実施されます。数理基礎科目群に含まれ、数理科学の基盤的な内容を学びます。プログラム内容については、学生便覧の数理データサイエンス教育プログラムを参照してください。

DSポイント：2ポイント

授業科目名 / Course Title	微分積分A (Eクラス) / Differential and Integral A		
授業区分 / Regular or Intensive	週間授業	授業方法 / Lecture or Seminar	講義科目
開講学期 / Course Start	2025年度 / Academic Year 前期 / First	対象学科 / Department	創造工学科 / Department of Engineering, 創造工学科創造工学科 / Department of EngineeringDepartment of Engineering, 創造工学科建築土木工学コース / Department of EngineeringCourse of Architecture and Civil Engineering, 創造工学科建築土木工学コース建築学トラック / Department of EngineeringCourse of Architecture and Civil EngineeringArchitecture and Building Engineering Track, 創造工学科建築土木工学コース土木工学トラック / Department of EngineeringCourse of Architecture and Civil EngineeringCivil Engineering Track, 創造工学科機械ロボット工学コース / Department of EngineeringCourse of Robotics and Mechanical Engineering, 創造工学科航空宇宙工学コース / Department of EngineeringCourse of Aerospace Engineering, 創造工学科電気電子工学コース / Department of EngineeringCourse of Electrical and Electronic Engineering, システム理化学科 / Department of Sciences and Informatics, システム理化学科システム理化学科 / Department of Sciences and InformaticsDepartment of Sciences and Informatics, システム理化学科物理物質システムコース / Department of Sciences and InformaticsCourse of Physics and Materials Sciences, システム理化学科化学生物システムコース / Department of Sciences and InformaticsCourse of Chemical and Biological Systems, システム理化学科数理情報システムコース / Department of Sciences and InformaticsCourse of Mathematical Science and
開講曜限 / Class period	金/Fri 3 , 金/Fri 4	授業科目区分 / Category	教育課程 システム理化学科
必修・選択 / Mandatory or Elective	必修	時間割コード / Registration Code	J2055
対象学年 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Number of Credits	2単位
担当教員名 / Lecturer	可香谷 隆(システム理化学科数理情報システムコース)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	可香谷 隆(研究室: Q411, E-mail: kagaya@murooran-it.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	可香谷 隆(毎週火曜日 12:55から14:25まで)		
実務経験 / Work experience			
授業のねらい / Learning Objectives	<p>理工学部のどの課程でも必要となる数学の基礎知識の1つである微分積分学に関する内容を講義する。</p> <p>微分積分Aでは初等関数の基本性質について理解し、1変数関数の極限・連続性・微分法を理解することを目的とする。</p>		
到達度目標 / Outcomes Measured By:	<ol style="list-style-type: none"> べき関数、多項式、三角関数、逆三角関数、指数関数、対数関数などの基本的な関数の性質が理解できる。また、それらの関数に関連した極限を求めることが出来る。 1変数関数の連続性と微分の概念を理解し、関数に対して連続性と導関数の導出を行うことが出来る。 1変数関数のTaylorの定理を理解し、関数に対してTaylor展開を行うことが出来る。また、Taylor展開を応用して、関数値の近似値を求めることが出来る。 1変数関数の極値を求めることが出来る。 		
授業計画 / Course Schedule			

総授業時間数：1.5時間(90分) × 15週=22.5時間

第1回：実数の性質と諸概念

第2回：関数の定義と性質

第3回：関数の極限

第4回：連続関数の定義と性質

第5回：逆関数

第6回：初等関数1（指数関数、対数関数）

第7回：初等関数2（三角関数、逆三角関数）

第8回：1回から7回の講義内容の復習と中間試験

第9回：微分の定義と性質

第10回：初等関数の微分1（合成関数の微分）

第11回：初等関数の微分2（逆関数の微分）

第12回：高次導関数

第13回：平均値の定理とロピタルの定理

第14回：テイラー展開とマクローリン展開

第15回：1変数関数の極値

定期試験

教科書の内容（講義内に指示する）を予め理解した上で講義に参加すること。

また、演習、レポートを課す。

各回の学修時間の目安は、事前・事後合わせて4時間必要です。

教科書 / Required Text

微分積分 高坂良史 [ほか] 共著 学術図書出版社 2018 (ISBN:9784780606447)

参考書等 / Required Materials

教科書・参考書に関する備考

微分積分に関する本は数多く出版されているので図書館などで自分にあった本を探し、参考にしてください。

教科書は微分積分B、微分積分Cでも使うので、紛失しないようにしてください。

成績評価方法 / Grading Guidelines

中間試験と定期試験を行う。また、毎回の講義でレポートを課す。

「中間試験40%、定期試験60%」または「中間試験36%、定期試験54%、レポート点10%」のうち評価が高くなる割合で換算し、100点満点として評価する。そのうえで60点以上を合格とする。

各到達度目標の評価方法は、中間試験・定期試験において定義、計算問題を出題し、達成度を評価する。

履修上の注意 / Please Note

演習やレポート等は必ず指定された日時までに提出してください。

中間試験や補講等の連絡はMoodleを主に用いるので、各自確認してください。

中間試験、定期試験を正当な理由で欠席した場合は学務課に欠席届けを提出し、担当教員にe-mailで速やかに報告すること。欠席理由が正当な場合、追試験等の措置を講ずる。

再試験を実施することがあるが、受けるためには、中間試験・定期試験の受験と一定数の演習・レポートの提出が必須である。再試験合格者の成績は試験の得点に関わらず60点とする。

最終的に不合格になった者は、再履修すること。

教員メッセージ / Message from Lecturer

講義の予習・復習をするように心掛けて下さい。

連絡事項はMoodleに掲載しますので、忘れずに登録して下さい。

講義の質問等あれば事前にE-mailでご連絡して頂いた上でQ411可香谷研究室にお越しください。

E-mail: kagaya@murooran-it.ac.jp

学習・教育目標との対応 / Learning and Educational Policy

学生便覧「学習目標と授業科目との関係表」参照

関連科目 / Associated Courses

1年次後期の微分積分B、2年次前期の微分積分Cにおいて微分積分Aを用いて微分積分学、微分方程式を学ぶ。

実務経験のある教員による授業科目 / Course by professor with work experience

備考 / Notes

疑問や質問などあれば研究室にて対応します。

研究室での質問対応の際には、事前にE-mailにてご連絡頂けると助かります。

本科目は、文部科学省による数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の認定に基づく、数理データサイエンス教育プログラムの教育科目として実施されます。数理基礎科目群に含まれ、数理科学の基盤的な内容を学びます。プログラム内容については、学生便覧の数理データサイエンス教育プログラムを参照してください。

DSポイント：2ポイント

授業科目名 / Course Title	微分積分A (Fクラス) / Differential and Integral A		
授業区分 / Regular or Intensive	週間授業	授業方法 / Lecture or Seminar	講義科目
開講学期 / Course Start	2025年度 / Academic Year 前期 / First	対象学科 / Department	創造工学科 / Department of Engineering, 創造工学科創造工学科 / Department of EngineeringDepartment of Engineering, 創造工学科建築土木工学コース / Department of EngineeringCourse of Architecture and Civil Engineering, 創造工学科建築土木工学コース建築学トラック / Department of EngineeringCourse of Architecture and Civil EngineeringArchitecture and Building Engineering Track, 創造工学科建築土木工学コース土木工学トラック / Department of EngineeringCourse of Architecture and Civil EngineeringCivil Engineering Track, 創造工学科機械ロボット工学コース / Department of EngineeringCourse of Robotics and Mechanical Engineering, 創造工学科航空宇宙工学コース / Department of EngineeringCourse of Aerospace Engineering, 創造工学科電気電子工学コース / Department of EngineeringCourse of Electrical and Electronic Engineering, システム理化学科 / Department of Sciences and Informatics, システム理化学科システム理化学科 / Department of Sciences and InformaticsDepartment of Sciences and Informatics, システム理化学科物理物質システムコース / Department of Sciences and InformaticsCourse of Physics and Materials Sciences, システム理化学科化学生物システムコース / Department of Sciences and InformaticsCourse of Chemical and Biological Systems, システム理化学科数理情報システムコース / Department of Sciences and InformaticsCourse of Mathematical Science and
開講曜限 / Class period	火/Tue 3 , 火/Tue 4	授業科目区分 / Category	教育課程 システム理化学科
必修・選択 / Mandatory or Elective	必修	時間割コード / Registration Code	J2056
対象学年 / Year	1年 , 2年 , 3年 , 4年	単位数 / Number of Credits	2単位
担当教員名 / Lecturer	若狭 恭平(システム理化学科数理情報システムコース)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	若狭 恭平((Q404 (若狭研究室) wakasa@muronan-it.ac.jp))		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	若狭 恭平(火曜 16時00分 ~ 17時00分)		
実務経験 / Work experience			
授業のねらい / Learning Objectives	<p>理工学部のどの課程でも必要となる数学の基礎知識の1つである微分積分学に関する内容を講義する。</p> <p>微分積分Aでは初等関数の基本性質について理解し、1変数関数の極限・連続性・微分法を理解することを目的とする。</p>		
到達度目標 / Outcomes Measured By:	<ol style="list-style-type: none"> べき関数、多項式、三角関数、逆三角関数、指数関数、対数関数などの基本的な関数の性質が理解できる。また、それらの関数に関連した極限を求めることが出来る。 1変数関数の連続性と微分の概念を理解し、関数に対して連続性と導関数の導出を行うことが出来る。 1変数関数のTaylorの定理を理解し、関数に対してTaylor展開を行うことが出来る。また、Taylor展開を応用して、関数値の近似値を求めることが出来る。 1変数関数の極値を求めることが出来る。 		
授業計画 / Course Schedule			

総授業時間数：1.5時間(90分) × 15週=22.5時間

第1回：実数の性質と諸概念

第2回：関数の定義と性質

第3回：関数の極限

第4回：連続関数の定義と性質

第5回：逆関数

第6回：初等関数1（指数関数、対数関数）

第7回：初等関数2（三角関数、逆三角関数）

第8回：1回から7回の講義内容の復習と中間試験

第9回：微分の定義と性質

第10回：初等関数の微分1（合成関数の微分）

第11回：初等関数の微分2（逆関数の微分）

第12回：高次導関数

第13回：平均値の定理とロピタルの定理

第14回：テイラー展開とマクローリン展開

第15回：1変数関数の極値

定期試験

教科書の内容（講義内に指示する）を予め理解した上で講義に参加すること。

また、演習、レポートを課す。

各回の学修時間の目安は、事前・事後合わせて4時間必要です。

教科書 / Required Text

微分積分 高坂良史 [ほか] 共著 学術図書出版社 2018 (ISBN:9784780606447)

参考書等 / Required Materials

教科書・参考書に関する備考

微分積分に関する本は数多く出版されているので図書館などで自分にあった本を探し、参考にしてください。

教科書は微分積分B、微分積分Cでも使うので、紛失しないようにしてください。

成績評価方法 / Grading Guidelines

中間試験と定期試験を行う。

中間試験40%、定期試験60%の割合で100点満点として評価する。そのうえで60点以上を合格とする。

各到達度目標は中間試験、定期試験において定義、計算問題などを出題し達成度を評価する。

履修上の注意 / Please Note

試験や補講等の連絡は、掲示板または授業中に通知します。

レポート等の提出を誤すことがあるので、その場合は必ず指定された日時までに提出してください。

中間試験、定期試験を受験・評価するためには、出席が良好である必要がある。

中間試験、定期試験を正当な理由で欠席した場合、試験日の当日までにメールで連絡を行い、欠席届を1週間以内に提出すること。メール・欠席届の提出がある場合、追試験等の措置をこうする。

再試験を受けるためには、中間試験、定期試験を受験する必要がある。また、出席が良好な成績が60点未満の不合格者に対して、再試験を1回行うが、再試験合格者の成績は試験の得点に関わらず60点とする。

最終的に不合格になった者は、再履修すること。

教員メッセージ / Message from Lecturer

講義内容の予習・学習の振り返りを行うこと

学習・教育目標との対応 / Learning and Educational Policy

学生便覧「学習目標と授業科目との関係表」参照

関連科目 / Associated Courses

1年次後期の微分積分B、2年次前期の微分積分Cにおいて微分積分Aを用いて微分積分学、微分方程式を学ぶ。

実務経験のある教員による授業科目 / Course by professor with work experience

備考 / Notes

質問は、教員室で対面で受け付けます。

オフィスアワー以外にも在室時には対応しますが、メールでアポイントメントを取るとよい。

本科目は、文部科学省による数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の認定に基づく、数理データサイエンス教育プログラムの教育科目として実施されます。数理基礎科目群に含まれ、数理科学の基盤的な内容を学びます。プログラム内容については、学生便覧の数理データサイエンス教育プログラムを参照してください。

DSポイント：2ポイント

授業科目名 / Course Title	微分積分A (Gクラス) / Differential and Integral A		
授業区分 / Regular or Intensive	週間授業	授業方法 / Lecture or Seminar	講義科目
開講学期 / Course Start	2025年度 / Academic Year 前期 / First	対象学科 / Department	創造工学科 / Department of Engineering, 創造工学科創造工学科 / Department of EngineeringDepartment of Engineering, 創造工学科建築土木工学コース / Department of EngineeringCourse of Architecture and Civil Engineering, 創造工学科建築土木工学コース建築学トラック / Department of Engineeringof Architecture and Civil EngineeringArchitecture and Building Engineering Track, 創造工学科建築土木工学コース土木工学トラック / Department of EngineeringCourse of Architecture and Civil EngineeringCivil Engineering Track, 創造工学科機械ロボット工学コース / Department of EngineeringCourse of Robotics and Mechanical Engineering, 創造工学科航空宇宙工学コース / Department of EngineeringCourse of Aerospace Engineering, 創造工学科電気電子工学コース / Department of EngineeringCourse of Electrical and Electronic Engineering, システム理化学科 / Department of Sciences and Informatics, システム理化学科システム理化学科 / Department of Sciences and InformaticsDepartment of Sciences and Informatics, システム理化学科物理物質システムコース / Department of Sciences and InformaticsCourse of Physics and Materials Sciences, システム理化学科化学生物システムコース / Department of Sciences and InformaticsCourse of Chemical and Biological Systems, システム理化学科数理情報システムコース / Department of Sciences and InformaticsCourse of Mathematical Science and
開講曜限 / Class period	火/Tue 9 ,火/Tue 10	授業科目区分 / Category	教育課程 システム理化学科
必修・選択 / Mandatory or Elective	必修	時間割コード / Registration Code	J2057
対象学年 / Year	1年 ,2年 ,3年 ,4年	単位数 / Number of Credits	2単位
担当教員名 / Lecturer	高橋 雅朋(システム理化学科数理情報システムコース)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	高橋 雅朋(Q403 (高橋研究室) masatomo@muroran-it.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	高橋 雅朋(月曜日16:15-17:45)		
実務経験 / Work experience			
授業のねらい / Learning Objectives	<p>理工学部のどの課程でも必要となる数学の基礎知識の1つである微分積分学に関する内容を講義する。</p> <p>微分積分Aでは初等関数の基本性質について理解し、1変数関数の極限・連続性・微分法を理解することを目的とする。</p>		
到達度目標 / Outcomes Measured By:	<ol style="list-style-type: none"> べき関数、多項式、三角関数、逆三角関数、指数関数、対数関数などの基本的な関数の性質が理解できる。また、それらの関数に関連した極限を求めることが出来る。 1変数関数の連続性と微分の概念を理解し、関数に対して連続性と導関数の導出を行うことが出来る。 1変数関数のTaylorの定理を理解し、関数に対してTaylor展開を行うことが出来る。また、Taylor展開を応用して、関数値の近似値を求めることが出来る。 1変数関数の極値を求めることが出来る。 		
授業計画 / Course Schedule			

総授業時間数：1.5時間(90分) × 15週=22.5時間

- 第1回：実数の性質と諸概念
第2回：関数の定義と性質
第3回：関数の極限
第4回：連続関数の定義と性質
第5回：逆関数
第6回：初等関数1（指数関数、対数関数）
第7回：初等関数2（三角関数、逆三角関数）
第8回：1回から7回の講義内容の復習と中間試験
第9回：微分の定義と性質
第10回：初等関数の微分1（合成関数の微分）
第11回：初等関数の微分2（逆関数の微分）
第12回：高次導関数
第13回：平均値の定理とロピタルの定理
第14回：テイラー展開とマクローリン展開
第15回：1変数関数の極値
定期試験

教科書の内容（講義内に指示する）を予め理解した上で講義に参加すること。

また、演習、レポートを課す。

各回の学修時間の目安は、事前・事後合わせて4時間必要です。

教科書 / Required Text

微分積分 高坂良史 [ほか] 共著 学術図書出版社 2018 (ISBN:9784780606447)

参考書等 / Required Materials

教科書・参考書に関する備考

微分積分に関する本は数多く出版されているので図書館などで自分にあった本を探し、参考にしてください。

教科書は微分積分B、微分積分Cでも使うので、紛失しないようにしてください。

成績評価方法 / Grading Guidelines

中間試験と定期試験を行う。

中間試験40%、定期試験60%の割合で100点満点として評価する。そのうえで60点以上を合格とする。

各到達度目標は中間試験、定期試験において定義、計算問題などを出題し達成度を評価する。

履修上の注意 / Please Note

演習やレポート等は必ず指定された日時までに提出してください。

中間試験や補講の掲示には注意するようにしてください。

中間試験、定期試験を受験・評価するためには、出席が良好である必要がある。出席は出欠と提出物で取ります。

中間試験、定期試験を正当な理由で欠席した場合、試験日の当日までにメールで連絡を行い、欠席届を1週間以内に提出すること。メールと欠席届の提出がある場合、追試験等の措置をこうする。

再試験を受けるためには、中間試験、定期試験を受験する必要がある。また、課題提出、かつ出席が良好な成績が60点未満の不合格者に対して、再試験を10月以降に1回行うが、再試験合格者の成績は試験の得点に関わらず60点とする。

最終的に不合格になった者は、再履修すること。

教員メッセージ / Message from Lecturer

講義の予習・復習を行つように心掛けて下さい。特に、教科書の例題や問い合わせは自主的に解くとよいです。

その際、講義用とは別にノートを作る方がよい。

また、高校数学の教科書の内容は十分理解しておくことが求められます。

よって、理解不足のところは自分で復習してください。自習の際、手元にそれらの教科書があるとよい。

全てが与えられるわけではありませんので、自主的に勉強をして下さい。

高校とは異なり、自分で考えないと分からることを自覚すること。

講義の質問等あればQ403高橋研究室に来て下さい。

学習・教育目標との対応 / Learning and Educational Policy

学生便覧「学習目標と授業科目との関係表」参照

関連科目 / Associated Courses

1年次後期の微分積分B、2年次前期の微分積分Cにおいて微分積分Aを用いて微分積分学、微分方程式を学ぶ。

実務経験のある教員による授業科目 / Course by professor with work experience

備考 / Notes

疑問や質問などあれば部屋に来てください。

オフィスアワー以外にも在室時には対応しますが、メールにてアポイントを取ると良いです。

本科目は、文部科学省による数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の認定に基づく、数理データサイエンス教育プログラムの教育科目として実施されます。数理基礎科目群に含まれ、数理科学の基盤的な内容を学びます。プログラム内容については、学生便覧の数理データサイエンス教育プログラムを参照してください。

DSポイント：2ポイント

授業科目名 / Course Title	微分積分 A / Differential and Integral A					
授業区分 / Regular or Intensive	週間授業	授業方法 / Lecture or Seminar	講義科目			
開講学期 / Course Start	2025年度 / Academic Year 前期 / First	対象学科 / Department	創造工学科 夜間主コース			
開講曜限 / Class period	火/Tue 12 ,火/Tue 13	授業科目区分 / Category	教育課程 創造工学科			
必修・選択 / Mandatory or Elective	必修	時間割コード / Registration Code	J8403			
対象学年 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Number of Credits	2単位			
担当教員名 / Lecturer	高橋 雅朋(システム理化学科数理情報システムコース)					
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	高橋 雅朋(Q403 (高橋研究室) masatomo@murotan-it.ac.jp)					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	高橋 雅朋(月曜日16:15~17:45)					
実務経験 / Work experience						
授業のねらい / Learning Objectives						
理工学部のどの課程でも必要となる数学の基礎知識の1つである微分積分学に関する内容を講義する。 微分積分 A では初等関数の基本性質について理解し、1変数関数の極限・連続性・微分法を理解することを目的とする。						
到達度目標 / Outcomes Measured By:						
1. べき関数、多項式、三角関数、逆三角関数、指数関数、対数関数などの基本的な関数の性質が理解できる。また、それらの関数に関連した極限を求めることができることが出来る。 2. 1変数関数の連続性と微分の概念を理解し、関数に対して連続性と導関数の導出を行うことができる。 3. 1変数関数のTaylorの定理を理解し、関数に対してTaylor展開を行うことができる。また、Taylor展開を応用して、関数値の近似値を求めることができます。 4. 1変数関数の極値を求めることができます。						
授業計画 / Course Schedule						
総授業時間数 : 1.5時間(90分) × 15週=22.5時間						
第1回 : 実数の性質と諸概念 第2回 : 関数の定義と性質 第3回 : 関数の極限 第4回 : 連続関数の定義と性質 第5回 : 逆関数 第6回 : 初等関数1(指数関数、対数関数) 第7回 : 初等関数2(三角関数、逆三角関数) 第8回 : 1回から7回の講義内容の復習と中間試験 第9回 : 微分の定義と性質 第10回 : 初等関数の微分1(合成関数の微分) 第11回 : 初等関数の微分2(逆関数の微分) 第12回 : 高次導関数 第13回 : 平均値の定理とロピタルの定理 第14回 : テイラー展開とマクローリン展開 第15回 : 1変数関数の極値 定期試験						
教科書の内容(講義内に指示する)を予め理解した上で講義に参加すること。 また、演習、レポートを課す。 各回の学修時間の目安は、事前・事後合わせて4時間必要です。						
教科書 / Required Text						
微分積分 高坂良史 [ほか] 共著 学術図書出版社 2018 (ISBN:9784780606447)						
参考書等 / Required Materials						
教科書・参考書に関する備考						
微分積分に関する本は数多く出版されているので図書館などで自分にあった本を探し、参考にしてください。 教科書は微分積分B、微分積分Cでも使うので、紛失しないようにしてください。						
成績評価方法 / Grading Guidelines						
中間試験と定期試験を行う。 中間試験40%、定期試験60%の割合で100点満点として評価する。そのうえで60点以上を合格とする。 各到達度目標は中間試験、定期試験において定義、計算問題などを出題し達成度を評価する。						
履修上の注意 / Please Note						
演習やレポート等は必ず指定された日時までに提出してください。 中間試験や補講の掲示には注意するようにしてください。 中間試験、定期試験を受験・評価するためには、出席が良好である必要がある。出席は出欠と提出物で取ります。 中間試験、定期試験を正当な理由で欠席した場合、試験日の当日までにメールで連絡を行い、欠席届を1週間以内に提出すること。メールと欠席届の提出がある場合、追試験等の措置をこうづる。 再試験を受けるためには、中間試験、定期試験を受験する必要がある。また、課題提出、かつ出席が良好な成績が60点未満の不合格者に対して、再試験を10月以降に1回行つが、再試験合格者の成績は試験の得点に関わらず60点とする。 最終的に不合格になった者は、再履修すること。						
教員メッセージ / Message from Lecturer						

講義の予習・復習を行うように心掛けて下さい。特に、教科書の例題や問いは自主的に解くとよいです。

その際、講義用とは別にノートを作る方がよい。

また、高校数学の教科書の内容は十分理解しておくことが求められます。

よって、理解不足のところは自分で復習してください。自習の際、手元にそれらの教科書があるとよい。

全てが与えられるわけではありませんので、自主的に勉強をして下さい。

高校とは異なり、自分で考えないと分からぬことを自覚すること。

講義の質問等あればQ403高橋研究室に来て下さい。

学習・教育目標との対応 / Learning and Educational Policy

学生便覧「学習目標と授業科目との関係表」参照

関連科目 / Associated Courses

1年次後期の微分積分B、2年次前期の微分積分Cにおいて微分積分Aを用いて微分積分学、微分方程式を学ぶ。

実務経験のある教員による授業科目 / Course by professor with work experience

備考 / Notes

疑問や質問などあれば部屋に来てください。

オフィスアワー以外にも在室時には対応しますが、メールにてアポイントを取ると良いです。

本科目は、文部科学省による数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の認定に基づく、数理データサイエンス教育プログラムの教育科目として実施されます。数理基礎科目群に含まれ、数理科学の基盤的な内容を学びます。

プログラム内容については、学生便覧の数理データサイエンス教育プログラムを参照してください。

DSポイント：2ポイント